



特集

祝卒業・修了

contents

- 02_ 学長メッセージ
- 04_ 卒業・修了を祝して
- 06_ 贈る言葉／卒業・修了にあたって
- 13_ 長岡の歴史[人物編]
- 15_ 退職にあたって
- 20_ フォトコンテスト
受賞作品の紹介

われわれの目的は
成功ではなく、
失敗にたゆまずして
進むことである



▼オックスフォード大学自然史博物館のジョージ・スティーブソン像



ジョージ・スティーブソン

George Stephenson
(1781年6月9日 - 1848年8月12日)

イギリスの発明家・技術者。
蒸気機関車の実用化に成功した。

「蒸気機関車の父」と呼ばれるスティーブソンの造った「ロコモーション号」という名の機関車が乗客をのせた車両を引っ張り、世界で最初の営業鉄道路線を開業したのは1825年9月、ダーリントンからの乗客をのせ、時速18kmの速さでストックトンまで走ったという。以降、世界中で鉄道建設が進められることになりました。まさに交通革命への大きな一歩でした。徒歩や馬車で長時間かけて移動していた時代において、あなたの永きに渡るチャレンジが人類にどれだけ影響を与え、どれだけの経済効果を生んだのか計り知れません。

私たちがまた、あなたの残した功績に深く共鳴し、社会に必要とされるものの創造にトライし続けたいと思うのです。



▲ストックトン―ダーリントン開業風景

写真=©ウィキペディア ©ウィキメディア・コモンズより



未来社会の入口は長岡にあり！

祝卒業・修了



□卒業・修了を祝して



新原 皓一
KOICHI NIIHARA

▶▶ 長岡技術科学大学長

✦ 諸君の希望と夢ある未来に 乾杯!

大学院修了、学部卒業おめでとうございます。諸君が、社会人として、また、大学院学生として現代の様々な問題の解決に重要な役割を果たされることを期待します。

諸君の在学中には記憶に残る多くの事が起こりました。その中で、諸君が一生忘れ得ない出来事は、昨年3月11日(金)に発生し、未曾有の被害をもたらした東日本大震災だと思えます。M9の大地震と想像を絶する巨大津波は、約二万人の尊い命と数十万人の財産と生活を奪いました。福島原発事故被災地区では未だに故郷に帰れない多くの方々がいます。

この震災から私たちは何を学び何を得たのでしょうか。日本人の強い絆と連帯意識、逆境に立向かう力を世界に再認識させました。しかし、一年たっても被災地域のガレキ処理は遅々と進みません。また、日本の新しいエネルギー政策の立案も進んでいません。他にも多くの解決すべきことが残されています。諸君は、今後とも続くこの多くの課題の解決において何ができるかを考え、日本人として、更には技術者としての責務を果たさなければなりません。

この大震災と原発事故等に絡んで、日本の技術への信頼性が失われたとの報道が良くなされています。しかし、一年近く過ぎて日本以外の多くの国々では、「高い技術を持つ日本だからこそ最小限の被害で済むことができた」、「自分の国であつたら大惨事になっていた筈」と、逆に日本の技術力が改めて見直されています。日本の高い技術力の世界的規模での再認識は、平成16年に生じた中越地震における新幹線の脱

線事故、平成18年に生じた中越沖地震における柏崎刈羽原発で生じた問題等に関しても、一年後に沸き起こりました。諸君は、これらの状況を正しく判断する必要が有ります。日本の技術力が、特に日本の「ものづくり」技術への信頼性が決して失われたわけではないことを心に刻み、本学で学んだ技術科学“技学”に自信と誇りを持って、未来に向けて力強く活動して頂きたいと思えます。

最近の世界規模の経済・社会環境の激変に対応すべく、本学は昨年8月に「長岡技術科学大学中長期成長戦略」とその「アクションプラン」を策定し、それを着実に実現する活動を開始しました。これは、本学の新しい理念として掲げた「社会の変化を先取りする“技学”を創成し、未来社会で持続的に貢献する実践

的・創造的能力と奉仕の志を備えた指導的技術者を養成する大学院に重点を置いたグローバル社会に不可欠な大学を目指す」の達成に向け、“ものづくり”の礎となる技学を新たな時代へと深化させ、未来を先取りする人材育成の使命を果たし、我が国の産業の技術革新と国際競争力向上に貢献するための10年先、30年先を見据えたものです。

本学は、本学が進むべき道を見失うことなく、この中長期成長戦略に沿って前へ前へと進んでいきます。諸君も本学で培った学びや研究、仲間たちとの生活を終生の誇りとし、未来を見据えながら自分の進むべき道を切り拓いてください。

諸君の希望と夢ある輝かしい未来に乾杯!



祝卒業・修了



◇卒業・修了を祝して



武藤 睦治
YOSHIHARU MUTOH

》理事・副学長

 卒業・修了を祝して

皆さん、ご卒業・修了誠におめでとうございます。どのようなことでも、それを成し遂げるには、さまざまな問題を乗り越えなければそこに至らないと思います。ここに至るまでの皆さんの努力に敬意を表したいと思います。

さて、皆さんの在学中には、東日本大震災を始め各国で頻発する巨大な自然災害、長引く景気減退、EUのいくつかの国で起きている財政破綻の危機、アラブの国を中心とした民主化の動きと政治体制の崩壊などの政治経済の大変動が起きました。これらは、いずれも個人の力、一国の力では太刀打ちできない、多くの国が、あるいは全世界が力を合わせて当たらなければならない大規模な問題が多く含まれています。

長岡ゆかりの「山本五十六」が映画化され、昨年暮れから上映され、長岡では人気があり、上映期間も延期されたと聞かれています。この映画に限らず、小説等でも、山本五十六が如何にグローバルな視点から、冷静に世界の情勢を分析・判断していたかを伝えています。戦争が始まる前にはアメリカとは戦争をすべきでないという立場を取り、戦争がはじまると如何に講和に持ち込むかに腐心します。映画の中でも象徴的な言葉として、山本五十六が若い記者に「目と耳と心を大きく開いて」と2つの場面で繰返

し言います。予断を持つな、できる限りの情報を基に冷静な判断をしろと言っているように思いました。

皆さんは技術者としてここに出発されようとしています。今技術者には何が求められているのでしょうか。我々は、日本がこれまで高度成長により築き上げてきた豊かな社会には、負の側面のあることを知りました。環境、安全・安心が優先される価値観となってきているように思います。勿論、依然としてもの作りの世界のリーダーとして、高品質、高機能、高信頼性を実現することが技術者には求められていますが、更に、変化しつつある社会の価値観にこたえるべく、グローバルな視点から、「社会の幸福への貢献」が求められているのではないのでしょうか。そのために高い教養を備えることが技術者こそ求められるのではないのでしょうかと思います。このような観点から、教育戦略チームでは教育カリキュラムを、将来戦略チームでは教育組織を含めた教育システムについて検討を進めているところです。

皆さんが本学のモットーであるVOSのように、社会においても、世のための奉仕(社会の幸福のための貢献)を念頭に置いて活力と創造性を発揮して下さいように期待しています。



◇卒業・修了を祝して



森 民夫
TAMIO MORI

》長岡市長

 俯瞰的な視点で、信念を实践で貫け

長岡技術科学大学に学び、卒業、修了を迎えられる皆さん、誠におめでとうございます。大いなる志を胸に、新たな道を歩き出す皆さんに、心からお祝い申し上げます。

さて日本は今、世界の激しい潮流の中、社会・経済情勢が日々変化し続ける、まさに激動の時代にいると言えます。このような時代は、歴史が物語るように、確乎不拔の信念、鋭く確かな先見の明、そして大局的な判断力を併せ持つリーダーが求められます。

長岡市はこれまで、そのような資質を備えた先人を数多く輩出してきました。昨年公開された映画「聯合艦隊司令長官山本五十六」の山本五十六もその一人です。山本は、最後まで日米開戦を反対した人物でした。当時、世論が開戦に進む中であって、なぜ戦争反対を強く訴えることができたのか。それは、アメリカ駐在時代に自分の眼と足で調べた確たる情報を持っていたからです。山本はこう述べています。「デトロイトの自動車工場とテキサスの油田をただただ見て、世界の孤児である日本の国力で、建艦競争もアメリカ相手の戦争も、到底やり抜けるはずがない」。問題意識をもって、自ら情報を掘り、本質的な意味を看破したからこそ、判断がぶれなかったのではないのでしょうか。

また、小説「峠」で知られる長岡藩の河井継之助は、尊皇攘夷論が激しさを増した幕末、「攘夷と叫んで国を滅ぼすよりも、全国の諸藩は藩政改革を進め、富国強兵にし、外夷にあたるべき」と藩主に建言し、経世済民の思想のもと、改革に取り組みました。さらに河井は、世界に恥じない強国とするには、日本中の各藩が協力しなければならないと考え、北越戊辰戦争では、新政府軍に藩の武装中立と、新政府軍と会津藩等との和睦を

談判しています。

しかし主張は入れられず会談は決裂。長岡藩は、この戦により焦土と化し、人びとの生活は困窮します。そのような中、大参事・小林虎三郎は「まちの再興は、人づくりから」と説き、三根山藩からの救援米を売却して学校を整備しました。いわゆる、長岡が世界に誇る「米百俵の故事」です。

このように長岡は、時代の趨勢を読み、未来を見据えて考える人物を世に送り出してきました。それは、実用の学問を重んじ、教育を第一とした長岡藩の気風に起因していると思います。その精神は、今も脈々と受け継がれています。

長岡技術科学大学は、実践力と創造力を備えた技術科学のトップランナーを養成する“考え出す大学”です。皆さんは、この素晴らしい教育環境の中で切磋琢磨し、世界に通用する現場力を身につけられました。

この先、何度となく難しい問題に直面するでしょう。しかし、厳しい局面から逃げず、挑戦し続けてください。越後長岡応援団である脳科学者の茂木健一郎さんは、「知能は困難な問題に取り組むことで鍛えられる。その結果、さまざまな分野の問題にも対応が可能となる」としています。自分の限界を決めず、「ガラスの天井」を破ってください。世の中の状況がどうであれ、社会を俯瞰的に捉え、己の信念を实践で貫いてください。

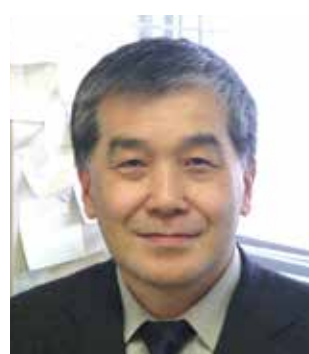
この4月、長岡花火がワシントンD.C.の全米桜まつりで打ち上げられ、大林宣彦監督の長岡映画「この空の花」が公開されます。皆さんの元にも、知らせが届き、長岡での生活を懐かしむ機会があるかもしれません。

長岡は、皆さんのふるさとです。新しい環境で、存分に力を発揮されることを、市民とともに心から応援しています。

祝卒業・修了



◇贈る言葉



東 信彦

NOBUHIKO AZUMA

》機械系長

◇さらなる精進を

卒業・修了おめでとうございます。社会人として羽ばたかれる皆さんに心からお祝い申し上げます。

さて、昨年3月の大地震・津波と福島第一原発の重大事故は科学技術への信頼感を大きく揺るがせることになりました。科学技術の限界が露になり、市民の科学不信にまで広がるものとなりました。科学者・技術者の社会的責務について我々は改めて自問自答する必要があります。科学は理想を追求しますが、技術は現実との妥協の上で成立しています。本来なら科学者・技術者は持ちうる全ての知識で想像し、科学の限界について市民に知らせ、警告を発し、対策を講じることができたはずで、それは決して「想定外」では無かったはずで、これは企業論理や市場主義が経済的合理性を優先させるという今の状況の中で、科学者・技術者の倫理観が麻痺し社会的責務を見失った結果といえるかも知れません。

一方、この大震災と原発事故以降のエネルギーの逼迫により、市民社会がこれまでの大量消費文化を見直す絶好の機会となりました。今後は、人間の欲望に奉仕する大量生産・大量消費の社会から、心の豊かさを求める生活へと回帰する欲望抑制の転換、大型・一極集中から小型化・分散化・多様化へ移行していくことが、我々が社会を持続させていく上で必須となるでしょう。この中で、科学者・技術者は社会のあり様や人間の未来について幅広い視点を獲得する必要があります。科学技術の進展を単純に是としてきたこれまでの価値観を問い直すことも求められるでしょう。変化の激しい社会にあって、地球規模の視野、歴史的な視点、多面的な視点で物事を考え、未知の事態や新しい状況に的確に対応していく力が必要とされています。

皆さんの今後の精進と活躍を大いに期待しています。

◇卒業・修了にあたって



瀧口 彰

SHOU TAKIGUCHI

》機械創造工学専攻2年
鶴岡高専出身

◇4年間を振り返り

大学生活4年間も終わってしまえばあっという間でした。高専から編入し、不慣れな土地での生活。最初は不安でいっぱいでしたが、サークルにも入り、学科に関わらず新しい友人ができ、最初の不安が嘘のような楽しい学部生活が送れました。

大学院に進学し、研究室にもなじんだころ、東京ビッグサイトで開催された工作機械の見本市であるJIMTOFに参加することになりました。このJIMTOFへの参加が僕の人生のターニングポイントでした。ウォータージェットや10mもの大きさの工作機械など、見たこともない工作機械に私は大きな衝撃を受けました。設計をしたいと希望があったものの、就活をどの業界で行おうかと迷っていた時期でもあり、この衝撃が就活を工作機械業界中心に行おうと思った原動力となりました。熱意を忘れず就活したおかげで、無事に工作機械業界への就職がかないました。就活のきっかけ、研究室メンバーと絆を深めることのでき

た、このJIMTOFが大学生活の1番の思い出です。

最後になりましたが、共に学生生活を送った友人、一緒に研究をした研究室メンバー、指導をくださった先生、様々な面で世話になった方々に心から感謝しております。4年間本当にありがとうございました。



憩いの風景

◇贈る言葉



大石 潔

KIYOSHI OHISHI

》電気系長

◇贈る言葉

ご卒業、ご修了おめでとうございます。

2012年は辰年です。昨年11月、国旗に白い竜が描かれたブータンのワンチュク国王とペマ王妃が来日されました。

お二人は東日本大震災の被災地の小学校を訪問し、こどもたちに「皆さんは竜を見たことがありますか。私は見たことがあります。竜は私たちみんなの心の中にいて、`経験`を食べて成長します。だから私たちは年をとって経験を積むほど強くなるのです」と話されました。`経験`は楽しい経験ばかりではないでしょう。とくに被災地のこどもたちは災害がなければなかったであろう過酷な`経験`をしたでしょうし、現在もしているでしょう。

したくなかったつらい経験、向き合いたく

ない過酷な経験。しかし、国王の言葉はどのような`経験`も竜になり、私たちを強くすると励ましてくれます。私はこの言葉に強く心を打たれました。

みなさんもこれから様々な`経験`をなさるでしょう。皆さんの中の竜を大きく、強く育ててください。私も私の中の竜を育てようと思います。

みなさんの健闘を期待しています。

ブータンはヒマラヤ山脈の南側にある国ですが、世界一幸福な国として注目を集めました。この国では豊かさを経済的、物質的豊かさではなく、国民の幸福感ではかる「GNH(国民総幸福)」という指標を高めることを目指すというのです。

◇卒業・修了にあたって



早川 光

HIKARU HAYAKAWA

》電気電子情報工学課程4年
福井高専出身

◇感謝感謝

長岡技術科学大学での生活もそろそろ終わろうとしています。振り返るとこの2年間は本当にいろいろな経験をし、たくさんの人と出会うことができました。

入学したての頃、私は知り合いが少ない中新しい環境でやっていけるのか不安でいっぱいでした。しかし、ほとんどが編入生という特殊な環境のおかげで、友達を作るのに時間はかかりませんでした。バーベキューをしたり、深夜に大盛りのラーメンを食べにいったり、真剣にバスケットに打ち込んだり、たくさんの思い出をつくることができました。

研究面では、打木教授の下、太陽電池の研究に取り組みさせていただきました。わからないことだらけでしたが、先生と先輩、同期に恵まれ、面倒くさがりな自分でも楽しく研究を進めることができました。

一方でつらい時期もありました。私は他大学院進学という進路をとったため、受験勉強をする必要がありました。そんな中、膝

の怪我で手術をしなければいけない状態になってしまいました。落ち込んで目標を見失いそうになりました。しかし、今こうして進路が決まり、卒業を迎える状況にすることができています。これは、この大学で出会った方々が支えてくれたおかげです。人は一人じゃ生きられないのだと感じました。お世話になった方々に心から感謝しております。学部時代を長岡技術科学大学で過ごすことができて本当に幸せだったと感じています。

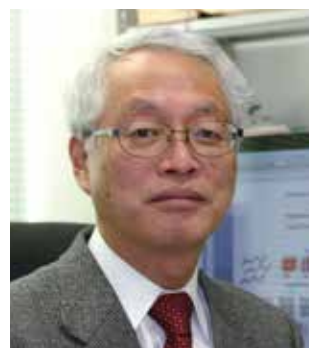


打木研B3歓迎会

祝卒業・修了



◇贈る言葉



塩見 友雄
TOMOO SHIOMI

》物質・材料系長

 諸君への期待

卒業、修了おめでとうございます。

諸君は在学中に、単に知識ばかりでなく、研究の進め方、困難に直面したときの解決法や、さらには課外活動や遊びの中で、種々のことを学びました。また、多くの知人、友人ができたことと思います。学生時代に知り合った友人は、一生付き合うことができます。それは、学生時代の交流が何の利害関係もなく、むしろ互いを高め合う関係だったからです。

昨年3月、未曾有の大地震と大津波があり、東北地方に甚大な被害をもたらしました。加えて福島第一原発がメルトダウンを起こし、多大な放射性物質が広い範囲に渡って拡散しました。想定外だった、安全神話が崩れたなどと言われ、なぜ想定

外なのか、なぜ安全神話が作られたのか、といった意見が数多く出されています。これらを見ると、単に狭い意味での技術ではなく、社会、経済、政治をも含む施策が重要であり、技術の発展はこれらを総合したものであるべきであることを教えています。その上で想定外が無いよう純粋に科学的見地に立った技術の開発が求められます。そのような努力の成果が社会の発展と人々のために寄与することになると思います。

若いときは十分な体力と精神力があります。若いうちに多くの経験を積んで下さい。諸君の前途は洋々としています。自分に自信と誇りを持ってかつ他人を大切に活躍されることを期待します。

◇卒業・修了にあたって



有本 真弓
MAYUMI ARIMOTO

》材料開発工学専攻2年
新潟県立三条高校出身

 修了にあたって

大学に入学して早いもので6年が経ちました。小学校の6年間とは違い身体の成長はないものの、何倍もの経験をし精神的に成長したように感じます。振り返ってみると本当にたくさんの人に支えてもらったおかげで今日を迎えることができました。

特に、仲間の存在にはとても感謝しています。旧カリ仲間や材開の同級生とは、テスト前には学校の休憩スペースで夜遅くまで勉強したり、レポートの資料を協力して集めたりと大変なことも楽しく感じました。また、バスケ部、第二食堂でのアルバイト、「化学のおもちゃ箱」のメンバーなど、多くの仲間との出会いは掛替えのないものです。研究室に配属されてからは個性的なメンバーに囲まれて忙しくも楽しい日々を過ごしてきました。本当に充実した6年間でした。

四月からは高分子の物性評価を行う仕事に就きます。これまでの研究の中で得た知識を活かすことができ、自分の興味のある

ことが仕事にできるなんてとても有難いことだと感じています。これも、大学院まで通わせてくれた両親、研究以外にも就職の相談などに親身になっていただいた先生方のおかげです。本当にありがとうございました。これからも出会いを大切にし、感謝の気持ちを忘れずに過ごしていきたいと思っています。



8月修了生の送り出しパーティー

◇贈る言葉



丸山 久一
KYUICHI MARUYAMA

》環境・建設系長

 不死鳥のごとくに

卒業、修了おめでとうございます。

例年より多い雪も融け、長岡にいつもの春が巡ってきました。年々歳々花相似たり、歳々年々人同じからず、と昔の人は詠いました。送り出す教職員は、まさにそのような気持ちを抱きつつ、皆さんの旅立を見守っています。

思えば1年前、東日本は未曾有の地震・津波災害に見舞われました。幸い、長岡では直接の影響はなかったものの、皆さんの中には、ご家族、ご親戚等でつらい思いをされた方、今もその気持ちの続いている方もおられると思います。必ずしも順調ではない状況でも、果たすべきことを果たし、今日、晴れの日を迎えられたことに、称賛とお祝いの言葉を贈ります。

人々の暮らしを豊かにし、自然災害から守るための基本を学び、その実現に必要な技術を身につけた皆さんは、実社会において、さらに大きな花、豊かな実を育っていくことが強く期待されています。世界の中で、これほど多くの大災害に襲われる国で、これほど高い文化を有する国は日本以外にはありません。われわれの先達が、災害に対する技術、災害から復興する技術を開発し、逆境に負けない精神力を培い、今に伝えてきた賜と言えます。

それを引き継ぐ皆さんに幸多かれと祈ります。

◇卒業・修了にあたって



藤岡 禎
TADASHI FUJIOKA

》環境システム工学専攻2年
福井高専出身

 感謝

長岡技大に編入して4年、あっという間の学生生活でした。編入当時、初めての1人暮らし、知らない地での生活は不安でしたが、学生宿舎の生活や講義を通じて、他高専出身の学生と仲良くなることができました。北海道から鹿児島まで、多くの人と知り合えて、様々な話を聞くことができました。就職していたら得られなかった、貴重な経験でした。

長岡技大では多くのことを経験しましたが、最も思い出に残っているのは研究生生活です。都市計画研究室では多くのゼミを経験し、わかりやすく伝えることの難しさを学びました。一方で、ボウリング大会や研修旅行などのイベントもあり、研究室のモットーである「よく遊びよく学べ」の精神でメリハリのある学生生活を送れました。研究やゼミで忙しくて辛く感じることもありましたが、いつも仲間がいてくれたことで、共に切磋琢磨して最後までやりぬくことができました。

長岡技大に編入して、多くの出会いと経験が私を成長させてくれました。私が自信を持って修了できるのは、指導してくださった先生、共に研究した仲間達、長岡で出会った友人のおかげです。本当にありがとうございました。学生生活で培った知識や経験を社会人になっても活かし、これからも成長し続けたいです。



研修旅行での集合写真(筆者1列目右から5番目)

祝卒業・修了



◇贈る言葉



古川 清

KIYOSHI FURUKAWA

》生物系長



社会で異文野の人達と交流し自己を高めよ

未曾有の大震災を経験し、世の在り方や自分の在り方を考えさせられる年でした。こうした中で本学を卒業・修了されていく皆さんに何を語るべきか、考え込んでいました。何となく世の中には閉塞感が漂い、変革が必要なのでしょうが、どう変革したらいいのか見えないところもあります。過去には異質な考えを互いに交換し、世の中が変わって行きました。18世紀のイギリスの都市バーミンガムには、ルナー・ソサエティーという知識人が集まるサロンがありました。これは進化論で名高いチャールズ・ダーウィンの祖父のエラスムス・ダーウィンが主宰し、神学者、医師、物理学者、化学者、作家、詩人、企業家など、実に多種多様(異分野)な人が集まっていたようです。

蒸気機関車を改良したジェームズ・ワットや酸素を発見(単離)したジョセフ・プリーストも参加し、これらの成果は異分野との融合でアイデアが沸いたとも伝え聞いています。さらに、質量保存の法則を発見したアントワーヌ・ラヴォアジエや嵐で雷が電気であることを見つけたベンジャミン・フランクリンも、この会と縁があったようで、実に多くの会員が社会の発展に貢献してきました。社会にでることはすなわち異分野との交流の始まりですから、皆さんは長岡技術科学大学という非常に特異な教育を受けてきたことを大切に、それを軸に異なる人達と交流し、互いに刺激し合い、異質で高度な着想から、この社会をさらによい方向に牽引して行って欲しいものです。

◇卒業・修了にあたって



下平 潤

JUN SHIMODAIRA

》生物統合工学専攻3年
長野県上伊那農業高等学校出身

長岡で過ごした日々を振り返って

2001年の4月に信越本線走る電車の車窓から日本海を眺めた時、ああ新潟に来たのだなと実感したことを今でも記憶しています。それから11年、長い年月を経てようやく修了を迎えることが出来ました。ふと大学のキャンパス内を見渡せば至る所で過ごしてきた日々の残像が蘇り、時間の長さを実感させられます。

学部では当初、大学の講義のスピードについていけず、本の並びを覚えてしまうほど図書館にこもって自習しました。大変ではありましたが、この時に身につけた基礎知識は現在に至るまで役立っています。主体的に学ぶことの大切さをこの時知りました。

大学院に進学し、研究室に配属されてからは研究に没頭する日々でした。私の研究は決してスムーズに進んだとは言えませんでした。来る日も来る日も実験をしてはネガティブデータに悩まされる日々が続きました。この日々を乗り越えてこられたのは、研

究室のスタッフ・メンバーの支えがあったからに他なりません。ありがとうございました。これからは本学で学んだ事を生かし、研究者として努力を惜まず、成長して行きたいと考えています。

最後になりましたが、ご指導頂きました先生方、これまで私を常に支え、励ましてくれた両親と妻に深く感謝いたします。



24時間リレーマラソン完走!

◇贈る言葉



福村 好美

YOSHIMI FUKUMURA

》経営情報系長



ライフサイクル

ご卒業・ご修了、おめでとうございます。経営情報システム工学課程・専攻はじめ長岡技術科学大学の卒業生・修了生の皆さんが、社会人あるいは技術者・研究者としての新しい門出を迎えられることに対して、心よりお祝いを申し上げます。この長岡技術科学大学において修得された工学的知見と探究心が、今後の活動に役立ち、さらには社会の進歩に貢献することを期待しております。

人間の長いライフサイクルを考えると、思い通りにことが進行して、すがすがしい気分の時もあれば、難題が発生して深い憂慮の時期を過ごすこともあり、自然の変化と同じように得意・失意のサイクルを繰返しております。ただ、人間の場合には難

題に直面して真剣に取り組み、解決の糸口を見つけると、その喜びは何にも増して大きいものであり、かつ大きく成長する契機となりえます。

現代は、知識基盤社会(知識あるいは情報が、政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域で基盤となる社会)だとも称されるように、知識・スキルが最も重要な資産のひとつとなっております。困難に立ち向かう勇気を持って、皆さんの若い活力と豊かな創造力で、既存の枠組みを変革して、人々と地球にやさしい社会を構築してほしいと思います。

◇卒業・修了にあたって



加藤 吉宗

YOSHIMUNE KATO

》経営情報システム工学専攻2年
鶴岡工業高等学校出身

大学生活で得た財産

大学生活を振り返ると学業も遊びも充実し、毎日が楽しく、成長出来た6年間だったと思います。6年前、「大学の講義って90分もあるのか、長いな」「単位落としたら留年するのか」など学業に対して非常に大きな不安を抱きながら入学したことを今でも覚えています。案の定入学してからの講義や実験などは大変で、ついていくのがやっとでした。しかし、友人たちと教え合い、過去問を集めて対策するなど助け合いながら乗り越えることが出来ました。他にも実務訓練や就職活動、修士論文など初めて経験することばかりで困難の連続でしたが、多くの人に支えられながら乗り越え、無事修了することが出来ました。

学業以外でも、6年間続けたアルバイトや、友人たちと作ったサッカーチームでフットサルやビーチサッカーの大会に出場するなど充実した時間を過ごすことが出来ました。

乗り越えなければならない苦しいことで

も楽しく乗り切れたのは、多くの愉快な友人たち、実務訓練でお世話になった上司の方々、的確かつ丁寧に指導して下さった先生方、大学で勉強をさせてくれた両親のおかげです。心から感謝しております。今年から社会人になりますが、素晴らしい出会いによって得られた経験を糧に、人に必要とされる技術者になりたいと思います。



学内のフットサル大会

祝卒業・修了



◇贈る言葉



平尾 裕司

YUJI HIRAO

》システム安全系長



それぞれの専門分野で安全のパイオニア、エキスパートをめざす皆さんへ

システム安全専攻を修了されたこと、まことにおめでとうございます。2年前に安全への志を持ち、入学されました。その高い志に面接試験で共感を覚えたことが懐かしく思い出されます。社会人として責任ある仕事と両立させながら、また、ご家族のご理解を得ながらこれまで勉学に多大な努力を継続された皆さんに敬意を表します。

システム安全専攻で学ぶ授業科目は、機械安全や労働安全を中心とした国際規格と機械・電気工学による安全技術、および総合的な安全マネジメントで構成されています。皆さんの専門分野は多岐にわたっていますが、システム安全専攻で代表的産業分野の安全について体系的に学んだことによって、自分自身の専門分野

が異なってもそれぞれの安全のための課題と取り組むべき方向がよりはっきりと見えてきたのではないかと思います。

システム安全専攻の修了は、次のステップの始まりです。システム安全専攻修了生同窓会、安全安心社会研究センターとともに、最新の安全技術・マネジメントに関する学習の機会や活躍の場を充実させていきたいと思っています。

修了生の皆さんがそれぞれの専門分野において安全のパイオニア、エキスパートになり、安全の担い手としてご活躍されることを期待しています。

◇卒業・修了にあたって



辻本 隆彦

TAKAHIKO TUJIMOTO

》システム安全専攻2年



出発点に立って

振り返ると社会人学生となりもう2歳も年をとったのかあ、いやもう2年も過ぎたのかあという思いです。残業代が付かない毎週土日の授業、晩酌しながらのレポート作成、子守りしながらのプロジェクト研究、社会人になって今までにない勉強と充実感があつた気がします。私は、プラント設備関連の建設会社に勤務しておりますが、安全と言われると現場での労働安全くらいしか考えた事がなかったのですが、安全をシステムチックに学ばせて頂いたおかげで、安全に対する視野が広がってきた様な感覚があります。

このシステム安全の特徴は、社会人が対象ということで多種多様な職業の方々が入学されていました。しかし目的は一つで「安全」というキーワードに対して非常に高い志をもった方々ばかりで、質問や意見がどんどん飛び交う、とても内容の濃いさらに楽しい授業になっていたと感じております。安全とは何かという永遠のテーマみたいな

ものがありますが、そんなに難しく考える必要もない気がします。危険なリスクを許容出来るレベルに下げればいいだけです。(それが難しいのですが……)ここで学ばせて頂いたことを基礎にして、改めて安全についての考えを再始動させます。最後に熱心にご指導頂きました先生方をはじめ、同窓生の皆さん本当に有難うございました。



安全帯使用方法の説明(建設現場)

◇贈る言葉



稲垣 文雄

INAGAKI FUMIO

》教育開発系長



学舎を巣立つあなたに

あの日
大地は裂け
母なる海は牙をむいた
子を流し、ちちははを、夫を、妻を
日々の生活を流し去った
人は
人知の薄っぺらな床の裂け目から
近代科学の奈落を見た

日本の科学者は、技術者は
もはやそれまでのように
ものづくりを語ることはできない

人は太古から
自然の猛威を乗り越え
生き延びてきた
だが今

あの日
崩壊したのは
日本の科学・技術への信頼

人には
自らの作り出した怪物を制御する
責任がある

長岡の歴史探訪

【人物編】
その⑤ 山本五十六

やってみせ 説いて聞かせて やらせてみ 讃めてやらねば 人は動かし

山本五十六は、真珠湾攻撃を指令した、太平洋戦争開戦時の連合艦隊司令長官です。その肩書きからは偉丈夫な武人をイメージしますが、身長160センチと小柄で、よく将棋を指し賭事を好み、性格は茶目であったと伝えられます。

長岡の士族高野家の六男として生まれ、米百俵で有名な國漢学校を前身とする阪之上小学校、旧制長岡中学(現長岡高校)に学びます。海軍兵学校を卒業後すぐ、日露戦争の日本海海戦に参加、左手の指2本を失う戦傷を負いました。海軍大学校在学中に、幕末の北越戦争の責任者として処罰され絶家となっていた長岡藩永代家老、山本家を相続し、以後山本五十六を名乗ります。

ハーバード大学への留学、駐米大使館附武官の経験から、アメリカの国情、日本との国力の差を熟知しており、日独伊三国同盟や日米開戦に最後まで反対しました。しかし、反対していた対米戦争が不可避となると、米太平洋艦隊の拠点基地である真珠湾を、全空母を動員して奇襲する作戦を立案します。緒戦で艦隊の補給基地に打撃を加え機能不能にすることで、アメリカに厭戦気分を醸成し、短期決戦で早期講和に持ち込む、というのが五十六の構想でした。

真珠湾攻撃では、湾内にいた米戦艦8隻全てを撃沈する

一方、日本の主力艦には損耗はなく、大勝利を収めたとされました。しかし、五十六の早期停戦にける思惑が不徹底だったため、ドックや燃料備蓄基地など補給機能破壊の目的は達成できず、湾外にいた米空母も無傷で残りました。結果、長期にわたる消耗戦となった太平洋戦争は、五十六の懸念の通り、国力の差がその戦力差となり、日本の敗戦へと繋がっていきます。五十六自身も暗号通信が傍受解読され、ブーゲンビル島上空で乗機が米軍機に撃墜され戦死しました。

時局を見通す大局観を持ち、開戦に反対した戦争を自ら指揮する責任者となり、緒戦では戦果を挙げたものの、物量で圧倒的な敵を相手に絶望的な戦いの後に戦死するという、幕末の河井継之助をなぞるような最期でした。

五十六は実戦指揮よりも軍政の才があったとも言われます。連合艦隊司令長官ではなく海軍大臣になっていれば、戦争回避へさらに尽力し歴史が違ったのかもしれませんが。



山本五十六

特集

祝卒業・修了

贈る言葉



高木 聖子
SEIKO TAKAGI

》むつみ会・会長

またいつか、どこかで

ご卒業、修了おめでとうございます。

留学生さん、またそのご家族の皆さまと交流を続けてきたむつみ会の活動も24年目になり、卒業後のご活躍の様子を耳にし、嬉しく思うこともたくさんあります。

初めてむつみ会で会った頃は、日本語やさまざまな国の言葉が飛び交う中で、期待と不安が入り混じった表情をしていたこと、一生懸命日本語で、色々な事を話してくれたことなど懐かしく思い出します。今ではすっかり長岡での生活に慣れ、長靴を履いて歩く後ろ姿には、しっかりと雪国の大地に立って生活してきた、たくましさを感じます。

忙しい学業の合間に、ボランティアやアルバイト、地元の人たちとの交流など、さま

ざまなことを積極的に体験する姿に、私たちが学生さんたちから教わることも多々ありました。今はもうすっかり日常になった長岡の空気を、長い時間が過ぎたとき、ふと思ひ出すことがあると思います。そしてその時、長岡で経験した、楽しかったことや大変だったこと、暑いね、寒いね、と言いながら交わした言葉、多くの人々との出会いが、大きな糧になっていることと思います。

ご活躍をお祈りしますとともに、またいつか、どこかでお会いできますよう願っています。

贈る言葉



磯部 広信
HIRONOBU ISOBE

》同窓会会長
塩沢商工高等学校教諭

卒業おめでとうございます

卒業・修了される皆さん、おめでとうございます。同窓会を代表して心からお祝いを申し上げます。そして同時に、長岡技術科学大学同窓会の正会員になられたことにも心からお喜び申し上げます。

昨年数々の天災に見舞われ、研究や就職活動を続けながらも心を痛めておられたことと思います。事情が変わったために進路を変更せざるを得なかった人も、考え方が覆されて変更した人もいないのでしょうか。

私達は、周囲の環境や自分の健康状態などで、思い通りの行動が出来ない場合が数々あります。

今年の大雪であれば、朝、アパートを出ようとしたらドアが雪で開かない。車も雪で埋まっている。大変だからバスで行こうとしたら、渋滞でいくら待っても来ない。乗ろうとしたら満員で通過された・・・ということがあったのでは？

それでも何とか研究室に着いてみれば、涼しい顔でパソコンに向かっている仲間達がい

ます。聞いてみると、「大雪の予報だったから帰らなかった」「いつもより2時間早く起きて雪かきをした」などなど、みんな手を打っているではありませんか。中には「外は雪なの・・・」という切羽詰まった仲間もいます。

脱線しましたが、思い通りに動けないことが、全て悪い方に転がるわけではない、ということは皆さんも経験済みですね。バスに乗れなかったから、車で通りかかった仲間が乗せてくれた。ということもあります。雪の降りしきる中を歩いている時に、雪が積もった木の枝が綺麗な、と感じ、そう感じた自分がちょっと誇らしかったりします。

何事も考え方です。環境や事情のせいにしないで前向きに。ドアを開けるか、自室に戻ってしまうのか。選ぶのは自分です。人生の岐路はたくさんあります。自分で選んだ道を後悔しないでください。

皆さんの今後の人生がより充実したものになりますよう、心よりお祈り申し上げます。

退職にあたって



中村 和男
KAZUO NAKAMURA

》副学長(教務、組織担当)
経営情報系教授

長岡で学んだこと そして残せたこと

「カマキリの卵が高いところに産みつけられた」とのこと、やはりこの冬の大雪は半端ではなかった。江戸後期の塩沢の鈴木牧之による「北越雪譜」には、この地の雪との関わりにおける越後人の粘り強い気質や「越後縮」などの名産品の由来などが記されています。そんな中越の中核都市長岡で教員として16年を過ごし、定年を迎えることになりました。

着任前の計画経営系は、教授三人、准教授二人、助手一人という陣容でしたが、私と李先生が同時に着任し、共通教育を支えようという気概で臨みました。以来、学内では、共通教育関連の先生方はもちろん、専門系の先生方にもタイ国タマサート大学の工学部拡充支援や実務訓練の管理などを通して、大学教育の在り方を教えていただきました。そして、私の人生にとっては、「長岡」はさらに大きな意味を持つことになりました。

長岡人は閉鎖的ともいわれますが、「米百俵」にみられるように自らを磨き、高めることに熱心です。そして、「よそ者」であっても、ひとたび心が通うと、積極的に交流を語り、変革を産み出してきたようにみえます。当初、私が「長岡」に参画できたのは、「長岡産業デザイン研究会」をお手伝いしたことからでした。着心地配慮のスーツ、段ボール製救急担架、お年寄りを意識したコンクリート製園芸花壇などのデザイン支援です。それらを通した学びが、長岡デザインフェア、中越地震後の市の防災体制の検討、そして今日の「まちなかキャンパス」への参画に繋がっていきました。

これらを通して、大学が地域の「ひとづくり、ものづくり、まちづくり」に協働してゆくための道筋を残し、これからの私自身にとっての道標を見出したように思います。長岡の地でお世話になった大学、地域の様々な方にお礼を申し上げるとともに、長岡と共に発展する本学の未来を願って止みません。



実験準備風景

退職にあたって



石崎 幸三
KOZO ISHIZAKI

》機械系 教授



学生諸君に、又、学生に多大なる影響のあるご父兄、お母さん方へ 退任する教員より

学生諸君に言っておきたいことがあります。私の研究室の学生にはいつも話してきたことですが、この機会に話させてください。

日本の学生の特徴ですが、大学選びには死にもぐるいになるくせに、研究室やその先の就職先の選択は、それほど真剣ではない様です。これは大きな間違いです。ただ、大学入試の情報は溢れているのに、就職選に関する情報があまりにも貧弱で、考えすら分かっていないため、仕方ない面もあります。そこで、必要条件で必要十分条件ではありませんが、就職先に関する考え方を伝授します。

会社が発展するかどうかには、誰が社長になるかが大きなウエイトを占めます。「皆様のおかげで社長になりました」という人物が社長になる会社では社長の顔も見えず、部下は上司の顔色をうかがうしか評価の基準がありません。一方、顔の

見える社長がいる会社は通常、何かをしたいという人が社長になっており、部下の評価方法も具体的に客観的に会社の方針の方向で決まり、効率よく経営できます。ソニーやホンダが大躍進しているとき、社長の顔はよく見えたとはいえず、

私は26年前、卒業・修了生のパーティーで「日産はつぶれます」と言いました。その当時、競争相手のトヨタ、ホンダ、スズキの社長の顔は見えました。しかし日産の社長の顔は見えませんでした。

これからの10年で起きる変化は戦後50年で起きた変化に対応します。学生の大部分は社長の顔の見えない大企業を就職先を選びますが、あなたたちが一番、働き盛りになった時、それらの会社は存続できるのでしょうか。どうか良い会社を、大学選び以上のエネルギーを使って選んでください。貴方の人生の幸せかどうかが決まる大きな要素です。



退職にあたって

NTTから転職し、86年4月に着任し、26年間お世話になりました。着任した時は、3年続いた2m以上の積雪の後であり、4月でも1階の窓の外には2mの雪の山がありました。着任前の1月中旬の土曜日の昼の全国ニュースで、「長岡技大では大雪の中で共通一次試験が行われています」という映像が流れ、あそこに行くのかと恐れを抱いたことを思い出します。意外にも、その後、この原稿を書いている時点まで、2mを超える積雪は無く、一方、適度な積雪で、大いにスキーを楽しむことができました。

強く記憶にある仕事での思い出が2つあります。一つは社会人留学生特別選抜制度の初回の入試で、1週間で4か国を回り面接を行ったことです。対象は元AOTS研修生ということで、行く先々でAOTS研修生同窓会幹部の歓待を受けました。2つ目はマルチメディアユニバーシ

ティーパイロット事業での機器の国際調達です。4月に予算が下り、それから事業計画を考え、年度内の納入完了というハードスケジュールでした。マルチメディアシステムセンターとその内部の機器はその時調達したものです。

私は、今後も長岡に居住します。図書館等を利用させていただきつつ、長岡技大の変化・発展を見守りたいと考えております。



植松 敬三
KEIZO UEMATSU

》物質・材料系 教授



退職にあたって

東京工業大学助手の時、長岡に素晴らしい大学が創設されたことを知りました。その大学へ赴任の話を頂いたときには天にも昇る気持ちになったものです。就任してまず先生方の能力の高さに驚きました。その上未熟な若造にも対等に接して下さい、おかげで何のプレッシャーもなく思う存分仕事ことができました。

当初、研究室の実験装置は極めて乏しかったと思います。しかし幸いにも当時、我が国の民間との大規模な共同研究が進められており、その中核的な装置である熱間等方圧焼結装置を自由に使うことができました。本装置はセラミックスの性能を大幅に向上する可能性をもつため、大いに期待しましたが意外にも成果は僅かでした。原因を調べるうち、従来のセラミックス科学技術における多くの本質的な間違いに気付きまし

た。それ以来、技術の中身を調べる解析法や課題への取り組み方を開拓するなど、独自の観点からの研究を進め、経験と勘に頼る従来のセラミックス製造技術に「技学」を導入することをライフワークにしたつもりです。

研究者としての姿勢は誤った常識や根拠のない定説を覆し、セラミックス超高性能化への方針を得ることでした。しかし定説ばかりが慣例・慣習への敬意も乏しく、気を付けてはいたのですが勇み足や周囲への迷惑は数え切れないほど行ってしまいました。それでも今日まで本当に楽しく教育・研究ができたのは、多くの尊敬する先生方のご理解、また呆れながらも暖かく見守って下さった職員・学生達のおかげです。皆様が仕事を思い切りエンジョイしつつ立派な成果をあげられることを祈願して、お礼にかえさせて頂きます。



探真如行舟、時流不停滞

1971年に修士課程を修了し、IBMの営業部門に21年、松下電器の企画部門に10年お世話になり、2002年、55歳の夏、7月に本学に参りました。それまでの仕事とは大きく異なる仕事で、まさに胸ときめく新たな人生の始まりでした。

着任した7月ひと月に1学期分、3科目45回分を集中して講義、2004年正月には社会人留学生の現地試験のために、4日間に3ヶ国を回って帰国、2007年、産学融合トップランナー養成プロジェクトに参画、メキシコ・ツイニング・プログラム(TP)推進のため、同年8月、10月訪墨、翌2008年4月、副学長(広報・情報担当)に就任しました。

2009年4月、新型インフルエンザが発生、日墨青年交流週間・TPホームステイ研修を延期、そして挙行、これらの決断とマスメディア対応に奔走したことも今は思

い出の一つです。

学会関連では、日本経営システム学会全国大会を2008年6月に本学で開催、2011年6月には、日本セキュリティ・マネジメント学会の全国大会も本学で開催できました。

この間、担当研究室から世に送り出した学生は、博士3名を含めて、延べ59名です。

本学での10年間は、まるで高速回転する走馬灯のようでした。これも、多方面で支えてくださった地域の皆様、導き助けて下さった多くの先生方、事務職員の皆様方、そして理解してついて来てくれた学生たちのおかげです。皆様の今後の発展とご健康とを祈念して、お別れの言葉と致します。



浅井 達雄
TATSUO ASAI

》経営情報系 教授

退職にあたって



加藤 幸夫

Yukio Kato

》教育開発系 教授

定年退職にあたって

「定年退職にあたって、在職中の思い出や現在の心境などをお書きください」というのが、執筆依頼の趣旨ではあった。

思うに、「定年退職」という言葉に対して、その該当者が抱くイメージは、おそらく種々雑多であろう。それと相応じて、退職を迎える心境も千差万別であるに違いない。もしそうだとすれば、在職中の思い出なるものも、おのずと無数の色彩を帯びていることになるであろう。

想えば在職期間も三十有余年。思い出も星の数ほどあったはずではある。がしかし、その大半は、今となっては忘却の彼方に追いやられて(ムリに追いやって)しまったようで、内容はおろか輪郭さえも霞がかったようで判然としない。おそらく記憶の許容範囲も超えてしまったのであろう。

良かれ悪しかれ、際立った思い出というようなものがなかったということは、それはそ

れで、在職期間が静かな時の流れであったと思えなくもない。そして、気がついたら定年であった、というのが現在の素朴な心境かもしれない。

とはいえ、鮮明に思い出されることがひとつだけはある。それは、志し半ばにして永遠の旅立ちをしてしまったかつての同僚諸氏の面影である。



高専・技科大教員交流制度 任期満了での帰任

平成23年度の高専・両技科大間教員交流制度で本学に赴任されている環境・建設系 入江博樹准教授(熊本高専)と機械系 若嶋振一郎准教授(一関高専)が3月末に任期を終えられることになりました。

この制度は、高専と技科大の教員を互いに一定期間派遣し、教育及び研究の向上を図るとともに、高専と技科大の連携強化を通じた、全体の活性化と人事の流動性の確保を目的に行われています。両先生には交流期間中、長岡技大の教員としての任務を十分に果たして頂きました。

高専に戻られた後も、ますますのご活躍を祈念いたします。



新原学長と 入江准教授(右)、若嶋准教授(左)



木間 等

HITOSHI KONOMA

》学務部学生支援課長

定年にあたって

私は、本学学生の第1期生の受け入れと同時の昭和53年4月、8年間勤務した東京外国語大学の上司から新設される本学のお話をお聞きし、転任してきました。途中、長岡高専等で3年間他機関の勤務を経験しましたが、本学には併せて34年間という長きに渡り勤務させていただきました。

本学での勤務経験は、採用当初から平成18年度までは総務部の総務課での仕事がほとんどで、平成19年度からの5年間は学務部で図書館と学生支援の担当をさせていただきました。

これまで無事に職務遂行ができたのは月並みな言葉ですが、やはり、上司に恵まれ、先輩、同僚、後輩の皆さんの助けを受け、更には先生方のご指導、ご支援の賜と思っております。この場をお借りし感謝申し上げます。これまでの勤務の中で特に思い出に残ることとしては、本学開学10周年記念式典を庶務課庶務主任時代に、20周年式典を庶務課庶務係長、

30周年式典を庶務課課長補佐として関わらせていただき、大学の節目の記念式典の挙行、関連する諸行事を実施するにあたり、関係各位からのご協力、ご支援のもと無事終えることができたことです。本学の歩みとともに自分が歩んできた道のりを振り返ると、長いようで短かったと感慨深いものがあります。

4月からは引き続き再雇用職員として勤務させていただく予定ですので、これまでの経験を生かし少しでも皆様のお役に立てるよう健康に留意しながら、元気に頑張りたいと思いますのでよろしく御願いいたします。

最後になりますが、今後ますます大学を取り巻く環境が厳しくなってくる折、職員一人一人が向上心を持ち、時代のニーズに沿った取組みを行っていくことが、本学発展のキーワードになると思います。教職員、学生の皆さんが本学に誇りを持ち未来へ向け邁進されるようお祈り申し上げます。

長い間ありがとうございました

昭和47年3月25日、東京大学生産技術研究所の技官として採用され、当時研究室の久保慶三郎教授・片山恒雄助教授、佐藤暢彦・大保直人助手、安田和枝・伊藤邦興技官の指導の下、見るもの聞くもの全てが新鮮な9年間の六本木シティボーイを過ごしました。

本学には昭和56年4月に転任しました。初出勤から3日目、「朝、大学に行っても机がなかったらやめる」、との思いが通じたのか、小長井一男助手からの、「一緒にやりませんか」と、声をかけてくださったことが今も脳裏を離れません。本学1期生から兄貴分としての楽しい大学生活も、小長井先生が東京大学に戻ることで、講座を移動させていただき、林正教授の手足となって勉強しました。

FORTTRANが使えて電子計算機を操れる技術職員が少なかったのか林先生には重宝され、その結果、建設系の先生方・学生諸氏の教育・研究の役に立てたかも知れません。

大学の定員削減・法人化等々、特に技術職員は存在意義さえ問われる昨今。本学の技術科学を追求する、頼りになる教育研究支援スタッフが求められているなか、日々の研鑽なくして明日はなく、変化を恐れての明日もないと確信します。

諸先生、先輩・同僚・後輩の技術職・事務職の皆さま方には大変お世話になりました。長岡技術科学大学の益々の発展をお祈り申し上げます。(肩書は当時)



学会の合間に恩師片山先生と(京都太秦にて)

増井 由春

YOSHIHARU MASUI

》技術支援センター 技術長

教室系技術職員として

赴任してから30年の間、皆様方大変お世話になりました。物質・材料系の教職員の皆様、特にセラミックス・サイエンス講座の植松先生、内田先生、田中先生とは一緒に仕事をさせて頂き、有り難う御座いました。

一番の思い出は、「教室系職員」として同じ研究室で仕事が出来たことです。その仕事は多岐にわたります。学生さんと一緒に研究データとった事もありましたし、実験装置の相談から作製と様々な対応をしました。海外の学会に参加し、研究発表をする機会にも恵まれました。ここ数年は、田中先生の主導で実験室を整備しており、成果を添付写真に示します。見学コースとして積極的に解放し、他大学の先

生や会社の方に高い評価を得ています。

プライベートでは、週末に新潟へ一緒に行った学生さんがおりましたし、落ち込んでいた際に、明るく元気づけてくれたベネズエラからの留学生もいました。研究室初期の学生のお一人が、昨年に訪ねてきて話が弾み楽しい一時を過ごしました。学生と同じ部屋に居た私は、大凡百数十名と知り合いになれました。

教室系職員も、昨年の組織化で徐々に研究室から離れて大学全体のための仕事を行いつつあり、私は区切りの時期に退職を迎えたと思っています。

最後に、再雇用で若干お世話になりますので、宜しくお願いします。



物質・材料系実験実習1号棟114号室にて

加藤 善二

Zenji Kato

》技術支援センター 技術専門職員

第2回 アーティスティック・サイエンス・フォトコンテスト

受賞作品の紹介

その2

このコーナーでは標記コンテストの受賞作品を紹介していきます。

今回は技術賞と科学賞を受賞した作品です。

技術賞

細胞絵

山田 遼太郎(生物機能工学課程 学部4年)

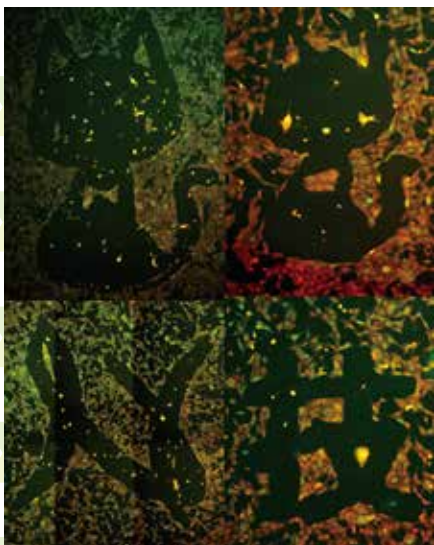


「細胞絵」を投稿した、システム幹細胞研究室(生物系 大沼研)B4の山田です。

この写真は3×4mm以下の微小な「絵」を細胞で表現したものです。私は趣味でよく絵を描いていて、私の研究している微小環境で細胞を培養する技術を応用し、細胞で絵を表現してみようと思ったのがきっかけです。

まず絵を彫ったハンコを作り、細胞と接着しにくいシリコン樹脂をインクにして培養皿に絵をスタンプします。そのまま樹脂を硬化させ、培養皿に細胞を流し込み細胞増殖させると培養皿の表面上だけに細胞がいる状態になります。写真の黒い部分はシリコン樹脂がついた部分で、色の部分が細胞です。

私の所属している研究室では、再生医療や薬剤アッセイへの応用が世界的に期待されているES・iPS細胞に関する研究を行っています。私は、一細胞レベルの特殊な形状をした足場で培養された細胞がその細胞の種類によって固有の動き方で遊走するという特性を利用し、iPS細胞の分化・未分化細胞を混合培養した中から薬剤や高価な装置を使わずに複数種類の細胞から目的細胞を単離する研究を行っています。近年、半導体製品におけるMEMS(マイクロデバイス集積)技術を用いて作製した微細な構造内で細胞培養する研究が盛んになっています。これによって幹細胞の分化や接着特性を高処理量で解析することが実現可能となりつつあり、再生医療等への大きな貢献が見込まれるため微小環境内での細胞培養の研究は期待されています。



科学賞

マグネシウム君の筋肉—双晶再結晶

徐 世偉(研究員)



試料作製法

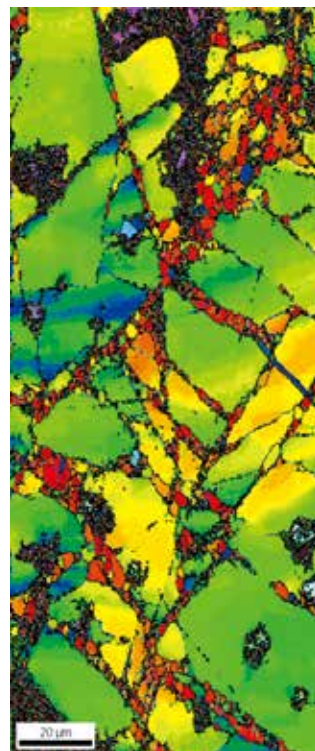
本実験では、φ50mm×50mmの円柱形Mg-9Al-1Zn-1Ca (mass%, AZX911)合金DC casting材を用い、試験温度を300℃、初期ひずみ速度を2×10⁻¹s⁻¹に固定し、圧縮率を変化させて高温圧縮加工を行いました。得られた圧縮材は5s以内に水冷し、組織を凍結しました。

観察手法

後方散乱電子回折法(Electron Backscatter Diffraction: EBSD)を用いて、圧縮方向に対し平行断面の中心部の逆極点図マップを作成しました。電界放射型走査型電子顕微鏡(日本電子製FE-SEM JSM-7000F)で加速電圧25kV、70傾斜させた試料に電子線を照射し、EBSDパターンを取り込みました。パターンのHough変換およびバンドの検出、指数付けと方位の計算は、解析ソフト(OIM analysis 5.0)を用いました。

写真の見所

汎用高Al含有マグネシウム合金の高温圧縮中に生じる再結晶メカニズムとして二重双晶を伴った動的な連続再結晶(CDRX)が生じることをEBSD観察により実証しました。その成果をもとに高性能化を目指した組織制御を提案し、実証するなど、新たな展開へ向けた研究へと進展させています。この写真の関連結果は「軽金属学会関東支部 若手研究者ポスター発表会」、「The 11th IUMRS International Conference in China」および「The 4th International Conference on Magnesium」では優秀ポスター発表賞を受賞しました。



編集後記

本誌が発行される頃には、春の日差しを受けて、だいぶ暖かくなっているのではないかと思います。同時に、本学で学んだ多くの学生が卒業・修了し、社会に出て行きます。卒業・修了される皆様は、本学での勉強や研究、仲間たちとの様々な活動を通じて多くの事を学び、大きく成長されたのではないのでしょうか。これから始まる新しい生活への期待の他、新たな環境への不安もあるかと思いますが、本学で得た貴重な経験をエネルギーとして、未来に大きく躍進して下さい。皆様の今後の活躍に期待しております。ご卒業・ご修了おめでとうございます。

VOSの由来

本学のモットーである、Vitality, Originality, Servicesの頭文字をとって、本学初代学長の故川上正光氏により名付けられました。



VOS NO.168 [平成24年3月号]

編集発行 長岡技術科学大学広報委員会[総務部 総務課]

◎本誌に対するご意見等は下記までお寄せ下さい。

〒940-2188 新潟県長岡市上富岡町1603-1

TEL. 0258-47-9209 FAX. 0258-47-9000

E-mail: skoho@jcom.nagaokaut.ac.jp URL: http://www.nagaokaut.ac.jp/

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。